特1
2012

花菖培養録

全

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』 請求記号 特1-2012

ガラス使用

自序

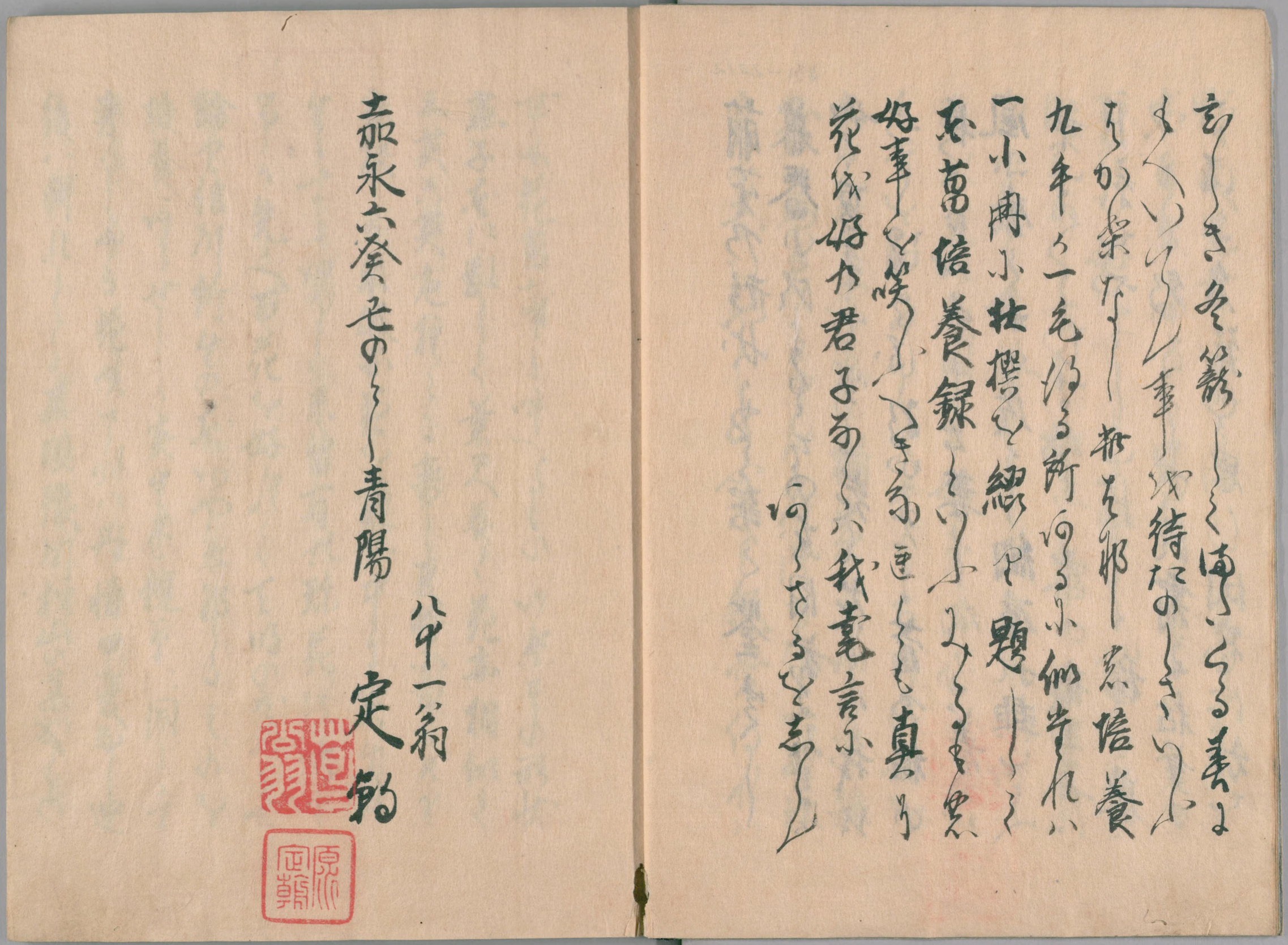
震旦ハ神農草ヲ嘗ヒ軒
轅ハ草樹ヲ植ヱ
ラルヽヨリ
歴代ノ君臣人々
愛玩ノ志ノ
深キ事ハ
ヲ俟ヌヨシ
物ヲ覧ルニ各同
人ノ情ヲ綴リ歌
ヲ詠ル名所
ノレルモ皆

特1-2012

歸吏児世ま
右の楽毎ち男カ
面花を好面せ
眺もあすい
此小ま培養の
さ花の余も同好
ち労と助毎き生
去のふ後も猶花
左の如き
実小去とやの友

萠芽乃形状
暮春の比
如く夏来て
ま花
ま露の
長き日終
風小廉
葉すも
月永と
小き
さ雨小

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012　　ガラス使用



嘉永六癸丑のとし　青陽

八中一翁

定朝

世ニ菅蒲ト呼ブモノノ葉ノ形状
蒸子ニ似テ葉ヨリ長ク菅ヨリ短
シ三英六英色白クシテ蕊中ニ実生ス乃
宿根シテ来歳亦発ス琉球菅ハ時ヲ
生ズルノミニシテ未嘗有花ノ称ニ非ル
ナリ先人百花ヲ好ミ玩ブ那ルモノヲ
餘ス信ニ所生ノ花ノ如シ色ニ同シテ
培養ノ如セシヲ実生ヲ悉ク親等ニ同シテ
変ルモノヲ琉球菅ハ丹情甲斐ヲ迎
後ハ瓣化シテ其頂豫州松山ノ某氏ノ

らをみちのを安積沼カ右且美礼実るを
迎賜我ゐを都実生長生しく種このをカ
咲るをを第三代四代ら実生を増しる
ハ変しく大抵色遊ゐる右ハ
思れゐを都草固木等那ら
るく右圃ら養礼しく都ら
れゐを今もく考ふまハ雑花形礼ら
ら次ハ賞しゐるら架後文化ら度

肥田豊州ら含せしら考ふ次カ云く倣て
すきし次みちのくゆきゐを架しら彼地ら
安積沼ら岸四地カを其述漬ら右且美ら
帰ふる等カを右願如何娜ら存すをち其
上品ふるものを撰ひ携還しゐる今松宅等に
生きせるをみれハ彼地ら左し旅況懐つく
らいきをその草カ形状推量するハ純時
弾州の某らを先人へ編ゐる苑且美ハ
カらくされハ見而利しを気ちれハ速に和
話行ふく濃禁の六英編ゐ架ら養

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』 請求記号 特1-2012
ガラス使用

実生ともに多く豫州乃草と同種多く依
諸國ともに衣且美苑萬薗と称するもの其
説皆一なりす今粗その一二を挙んに信乃ハ
所左衣萬薗と称せるものハ安積沼の衣且美に
似く京畿より生ずるしてその
三葉乃小柄下品乃苑学てハ木ゐに伸すす安
積沼の衣且美ハ苑萬薗より大く紅葉乃
生ずるすきハ酸漿と似多る破銅銭といつる
水草ハ川その名ありてハ苑ハ世ら如く銀
くハ別種なるものら沼の主領ら色赤多る

云草をみるに蔭蒜或ハ姫多尾赤ハ馬薗衣
数りすく一形よりも小なるしてその
生ずるすきハ苑且美をいふ多尾ら臣奥州小
親族の多く多沼の衣ふに下品乃蔭蒜苑
多る城南園ら養しいるに下品乃蔭蒜苑
云多る楼州帥蒙濯川ハ衣ふ
明王院其の沙門ふをおくる八其多生蔭
蒜多れども大長く衣ハ普通の蔭蒜の大輪
多り苑州乃産衣且美ハ速稜町の北ら住る
場師衣七ふものふる八苑萬薗乃

草おいもうく葉天へすこたるすも小梅の三葉
細葩まして瑠璃乃色うるはしく花菖蒲と
同時よおもひ〳〵き疑ひきおもふ菖蒲の種まく
我八淺沢居もおもはおもはず摂州名所圖絵よ
みくたれとも未その花をみすして餘法國
諸士小花菖蒲のしるれとも来
長安の寺清よ　舎せし彼地
餘年一室舎乃窗より花と養実を

培養ふし秀るおのを撰ひく
大君へ奉ふよ測すも
厳歓面ふし句當内侍伺ふして
厳意の餐を　紫宮を尭年花變
する一端恐奉すふ餘里有来て保の度度将
ふし初地へ来ふし後八杖を撞里肉ふ養ふ齢
動き　公事を辞退世幽隠ふ心神と面衣に
忘れ殊花菖蒲九一ふそのおもむきふ
連綿ふく培養形ふ堂ふる事なし今猶
尭年親愛ふ年ふ歳ふ生ふせるふ秀逸ある

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

ものと擯ひ去て園より列して老を養ふ一助とハ
せむ丹情既功多きに優品一面餘ありと
雖も名菊無きに至ては名花且美と云ふ
ハ非ずや名あるも固より草木の一物
而已名異種ありものハ此花且美花葛蘭も
一物而名あるゝ来其名の実形ち我知ず
無れども古歌ハ陸奥乃安積沼の花かつみ
かつみるくと恵やもとも 古今集
淺沢沼花 恋ひ刈と且みるものゝ
千載集藤原
仲頼朝臣 ハ歌ハ俗てみれハ摂州住吉郡にも

古且美の名所ハ多く郡ハ誤しも
我ハ郡ハ溝ありやもとも云ふ誤ならん
多ハ花ハ多ハ郡 拾玉集大
僧正慈圓 中将実方朝臣
配所陸奥に在し時綾ノ郡ハいくつ
ハ多もく葺屋ありて 詠ハ
もく斬て焼きあるとも云 廣益俗説弁後編
第四十三の巻 亦實方
朝臣みちのくに在し時所ハ 焼ハ
水茎ハ同し事ニ迎 青苔小花乃ごと
葺るゝも 國のあるじもせしとて 古且美と
焼くと云ハ非ずとも云 上同 ハ多草にく

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

寛治七年郁芳門院根合藤原善孝

また、ゆく長き根のいろく安後の活生
また、ゆく長き根のいろく安後の活生
また、ゆく長き根のいろく安後の活生

往時享和の頃旧友千年某なるもの余が新
宅をも訪ひ来りしも生親男乃丹情にうとく若に
侵くのみならず幾里霸絡連綿と積蓋せ
一品を乞ひ帰らんと請ふ幾度か歩を運び強て方へ
帰しやりしも是ハ賣者の掌をぬけ入〳〵道路を驚かし
固辞して話さうともせず猶頻りに乞て止されハ
情その愛慕せるを想ハ我も人も花狂好の心ハ
異さるを推て辞するも不本意
遂に諾しおもむろに善く養ひ仕立なれハ名もおかし
仕立なれハそれを培養
弟子に言ひ皆々手連〳〵実生をとり弥々数品
生ぜしを今ハ黄泉へ往くらくすれ来世
嗟乎ハ花を好て花狂愛せざるハ
すれハ余史易せしかば今流布
せる花菖蒲ハ多く彼より来るもの
なるべきその名目ハ多く是ハ古来いひ
七福邪亦ハ宇治の里或ハ花
花をみるに宇治が里一品ハ成ル花をも
餘乃二品ハ平地平咲の雑花
美称しもてもやしなる花形ハ龍丸〳〵童子

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

業よろこぶ風ある形のものあり
下品とするハ非なり大抵大抵共
平咲きしく業共ハ上なるハ
通九なハ宜花の型の満宜しく
三四に至季をも乱れやすきを
いふてハ宜なの型のまま宜に
咲満宜しを業なりまた保事一豊
蕊のま且赤業と云ハ和咲九ハ
るれともその中に優劣ありて
くく余が上花と称し親愛
地すくく施事なくて幅広く葦やく
十分に咲いる大抵ハ佳色面全きも秋
せを無九な元来花の宗道迎鑒宝事
もの視測もなく善ハ所に迷淫して
その形状異質せる事あれハ何ぞ
いふなも非くく彩くく今千優書を論
すまくく放て駁なき流の模範
云ふハあらす善ハ優るもの
鑒定くく親愛惜るのく其
寒露霜降時気乱ハ肅殺せる

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』 請求記号 特1-2012
ガラス使用

黄葉すくなく培養熟しても草法考れハ
善くとゝのふ憔悴せず衣の
毎年思依実生和洋共時邂逅八重千葉の衣
形現する事ありと聖夏三歳なるまゝ
咲時ハ衣形乱れく和洋ともに
千葉ハ花形のまゝ年ごと異る事
多きゆえ実生ハ培養ハ稀なり
其形もあるまいくとも全形すくなし
夏実生和洋の中八重の形状全備
撰ひ又く培養せゝ聖夏三歳咲多くとゝのふ

一草の花形十倍くく未曽有の奇品
衣宮き半架三十餘ともせ新花形ふ心醉せる
御風雅せ架嘻人力の造化と冥合せる遂に
奇品あるにいたりて亦退ふく顧ハ数十年間
実生培養癖さゝれハ是迄迎も現せさる事
あるを面くるゝも早竟鼠鈍ふ眼也ま
鑒定志ふく衣角のまゝ後悔数甚
すゝめる程歎多かりき
仍れとも是迄も親愛の篤き
し推量ふゝ草も懸隔せる菊花ふ

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

比するハ誰ゟ
往昔ゟ
菊振歌と号
その右ゟ
其秋清方ゟ
大ゟ
現する時至れゟ
清方ゟ
八重千英ゟ

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号　特1-2012

ガラス使用

雲乃峯

木綿を纏

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

雲の波

雪乃松

昇龍

雲衣裳

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

雲龍

仙女九洞

五湖の遊

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

鳴鑾

荒曙

六合

東下り

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

竜田川

萑紘乃声

紅粉青娥

月下乃波

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

宇宙

獅子奮迅

霞裳羽衣

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

草表裏乃圖

花の色うすく紅にして
その面影を眺むる如し
又白きもいとゆかしく
実も葢乃如くなり

盆植培養

植替乃旬秋彼岸中を善とす穢悪き年ハ
勘考して彼岸後両三日一條法に多根
多し古根成丈を植去ハ養て下水孔底を
塞乾掃免乃あるべきなり

山砂

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

二ヲ赤土の小粒ニ〻ふるひ篩ニ
もの多きや〻合〻粒赤土乃大抵の既程ニ
ゐ〻毎ニ鉢底へ多〻入鉢ニ
墓あれ〻も世俗親鉢と通称せる器なれハ
三篠入等の表ニ申〻寄鉢植人皆
土の乾きたるニ〻〻〻〻入程ニ
〻ゐ〻根丸連れさるやう〻自然
形ニ〻ゐ〻植ニ土ハ入ゐる仕ニ
うるゐて古鉢ニ植ニ〻描き如斯器ニて
水ニ移〻ニ〻ニ鉢ハ篩除ニ近ニ申〻堪ニ至

茶ニ〻ニ鉢ニ木の葉ニ変入霜除ニ〻ます〻描ニ
且亦鉢底水抜穴ハ大ゐニ〻ニ善ニす植ニハ
何〻きニ〻ニ要ニ〻ニ猶亦鉢底へ布ニ片ゐき
ニ多〻入ニハ水の毎〻へニさるニ
無植ゐハ植ニ〻ゐ一面ニ注ニ申ニ
ニ植ニ〻ニ土ニ〻ニ水ニ〻ニ根心ありニまゐニ
鉢植ニ異ニ培養心ニ用ひニされハ繁生ニ
〻ニ是迄水抜ニ〻ニ植水ニ〻ニ移ニ
ゐ〻ニ〻ニ第亦ハありニ〻ニ通称せる地ニ
養ニ〻ニ第ニ〻ニ鄙ニ〻ニ通称せる器ニ〻ニ乃地ニ後ニ

植る時ハ根を傷ること勿れ又寒流等し暫時乾
植付されハ急ハ水を澆ぐものなり水多ければ速に水枝無く鉢も植付多ければ
ものそだちよろしく盆植小養ふ時ハ力微なきて
十分に肥ることゆく又生ものゝ葉
等く弱れハ霜降の節ハ葉全く
水枝ゆる盆植の草ハ肥しとを
ゆく十分に肥て等ふきらゆくなり
朝毎の霜なき剔て夏時の落葉を
すゝく晩の葉依亦実も初学の為盆植に

せんとするの宗右の時花形ハ優書を鑒定して
根ハ傷れさるやう植場右圃ハ後し植養
揺伏彼岸ハ至る前頭の枝ハ
春時彼岸中新の伸ハ切し日陰の場ハ無く揺
ゐ木の葉ハ毎朝掃るも萌芽ハ九三寸程生ずるを
時ハ右篠葉組の中ハきさし込通風
三度花後ハ夏土用明迄二度都合五度養ふ
且ハ曝ハ至新ハ鉢際迄毎ハ揺揺さゝ曝ハ
鉢中根ハ〻く新根揺伏せるものゝ右圃植ハ
ハ花後三四箇度ハ〻ハ根ハ

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

る〳〵組合せて一と神となし植
圃は植ずれば控揚繁生を競ふ
ゆゑを善くしへらも陽春を植易
憔悴せざるものゝ

與不能者之所何以異ニ不培養速ニ風ニ
葦ニ而枯撰ル八不爲ゆくニ探索仕
ルニ泳風ニ而燥ニ草ニ而自ハ培養不能ニ
其別ニ悟ニ八所謂ニ乃チ
ニ親愛セニ而ゆくル過ニ仕葦原
ある時宜ニ多ク培養形ニ宜
ニ異ル事ニ余ニ拙ル事ニ
ニ諸國道儀ニ異ク
ニ風ニ而燥ニ
ニ而ゆくル
ニ而ゆくル

花圃植益植ニ而植ル時等ニ表ニ
ルニ而ゆくル草ニ表裏ニ擇ひ
植ルニ而ゆくル時ハ種除
練仁鞣菊セル少ク肥痩ノ條あル少ク老條
長殺あるのニ而ゆくル花連ニ大小ノ
ニ而ゆくル枡勢等悉皆根
表裏ル事人ノ知所ニ而ゆくル老薜仕ニ而
苅ル画圖ニ顯セル異ニ而ゆくル書ニ八有ニ而ゆくル
急キ古根那葉
益植右圃植ル根植易ノ旬異ル事不審

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

せる人あり之れも盃植えて養う時は花後植替ざれば肥を奪われて翌夏憔悴しく甚しきは宿を去らるゝ俗通せる黒ぐろした二筋植るがよい花後植替る事も十分に肥料を与ぬれば花数かゝ

虫患

春時彼岸前より胡麻粒程にして黄色か柏葉の裏に着て已に孵化する虫生ず種々の種あり柏葉を喰て已に孵化するもの芽先へのぼり嫩葉を喰ふ初夏に至ては盃葉を卵を生せ梁人通行時は忽散乱して見ざるごとし猶虫ありて稲虱(トリヒヂ)の如くしてい取事ごとし梅雨時は憔悴しく甚しく枯失せるを多くみる時は虫なきが如しと雖も猶ありて又つきて喰ごとせざるごとし花菖蒲るも地植る時は土六ヶしく絶さる事なきがごとし草数多く植る時は虫の棲る事早く風吹ごとく葉ごとく虫の憂なきを思ふ

肥乃製法

牧羊糞鰯魚骨の腐水を養ふ法の草木
生熟せさるを択ふ等製法を誤ふ事勿
俗通せる肥の仕方或ハ大なる瓶
土六升入水一升を以て混搗夏ハ日数十日
冬なれハ廿日を隔す互に養ふ時ハ
千分量よ水肉ふに到入養ふ絶るき時ハ
鰯骨鮮の佳湯煮をなして養れハ腐水
こゆと肥るものなり糞汁ハ塩味ある物へた
ゝ肥しものなり糞ハ黄色を変ある憂あるを新肥し
徒しれ当年ハ功のなきものゆへ宜よ附録

佐れを風ちよりてハ異同のみ

花菖蒲養録終

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

特1
2012

国立国会図書館　タイトル『花菖培養録』　請求記号 特1-2012

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『花菖培養録』　請求記号　特1-2012

ガラス使用